

健康を意識した前向きな取組みを推進している団体・企業を募集

「スポーティライフ大賞」開催

2017年10月1日（日）～11月20日（月）

生命保険協会（会長：橋本 雅博 住友生命保険社長）は、「スポーティライフ大賞」の事例募集を、2017年10月1日（日）から11月20日（月）まで行います。

当大賞は、スポーツを通じた健康増進活動を促すことにより、「安心して健康に暮らすことができる社会の実現」に貢献するため、健康を意識した前向きな取組みを推進している団体・企業を全国から募集し、優れた取組みを表彰するコンテストで、スポーツ庁の後援による事業となります。

応募の際には、団体・企業の健康を意識した前向きな取組みについて、活動の内容、きっかけ、成果、今後工夫していきたい点や目標などをまとめて頂き、活動内容が分かる写真や動画などの資料と一緒に送ります。

部門は、地域で健康活動を支援している団体、地域スポーツ教室、NPO/NGO 法人、学校、地方自治体等を対象とする「地域コミュニティ部門」と、自社の従業員（家族を含む）の健康活動を支援している企業を対象とする「企業部門」があります。各部門のグランプリ各1団体には賞状および賞金30万円を進呈いたします。また、準グランプリや優秀賞、高校生・大学生による活動を対象にした特別賞も設置いたします。

選考は、スポーツ医学、健康政策の専門家である筑波大学大学院教授の久野譜也さん、元競泳日本代表選手の伊藤華英さんといったスポーツ分野で専門的な見識をお持ちの2人と、生命保険協会副会長の小林研一で公正に行い、優れた取組みを2018年2月16日（金）に本会のホームページ等で発表する予定です。



久野譜也さん
(筑波大学大学院教授)

伊藤華英さん
(元競泳日本代表選手)

<報道関係のお問い合わせ先>

「スポーティライフ大賞」事務局

〒102-8025 東京都千代田区紀尾井町3-23 担当：井上、末下

電話：03-3263-0005 F A X：03-3263-5623 E-mail：sportylife@prk.co.jp

■「スポーティライフ大賞」事業目的

生命保険協会の事業の一環として、健康を意識した前向きな取組みを推進している団体・企業を全国から募集、優れた取組みを表彰する。

そして、優れた取組みをモデルケースとして事例収集、報告書にまとめ、公表することで、「安心して健康に暮らすことができる社会の実現」に貢献する。

■「スポーティライフ大賞」ステートメント

健康は大切。そのためには適度な運動が必要。それは誰もがわかっていること。

でも、いざ「スポーツ」をしようと思うと、ちょっと腰がひけてしまう。

時間も労力も結構かかるし、よっぽど好きでなければ続けられない。そう思ってしまう。

もっと毎日の生活の中で、気軽に、手軽にはじめられることがあれば。

極端に言えば、「気づいたら健康のためになっていた」という取組みがあれば、

誰もがもっと健康になれる。それをみんなとシェアできれば、健康の輪がもっとひろがっていく。

だから、生命保険協会は、日常生活の中に健康になるための方法を取り入れている

個人・団体・地域を全国から募集して、優れた取組みを表彰していきます。

ちょっとした工夫やアイデアで、もっとみんな健康になれる。そう思うから。

私たちはこの賞を通じて、「安心して健康に暮らすことができる社会の実現」に貢献していきます。

■「スポーティライフ大賞」募集要項

部 門 / 応募資格	<p>①地域コミュニティ部門：地域で健康活動を支援している団体、 地域スポーツ教室、NPO/NGO 法人、学校、地方自治体等</p> <p>②企業部門：自社の従業員（家族を含む）の健康活動を支援している企業</p> <p>※応募は 1 団体につき 1 回まで。また地域コミュニティ部門と企業部門には同時に応募できません。</p>
応募内容	<p>みなさまが取り組まれている活動について、下記項目をお答え下さい。</p> <p>①活動の概要 活動名／主な活動内容（運動の種類など）／アピールポイント（活動の特徴や工夫している点など）</p> <p>②活動状況 活動期間（いつから）・頻度／場所／参加人数／活動周知方法 【地域コミュニティ部門】活動の対象者（地域・社会のどういう人に参加を呼びかけているか） 【企業部門】活動の参加者（企業内のどういう部署で実施しているか、家族等の参加の有無）</p> <p>③運営体制 【地域コミュニティ部門】活動の収入源／行政・地域コミュニティ・NGO などとの連携や方法 【企業部門】企業のサポート体制</p> <p>④活動のきっかけ 活動を行っている背景・狙い（地域・社会や企業の課題、その解消のための工夫） *「参加者の健康づくり」という視点からも、その内容を記載して下さい</p> <p>⑤活動の成果 【地域コミュニティ部門】地域・社会の方々の健康づくりにつながった点、参加者の声など 【企業部門】従業員や家族の健康づくりにつながった点、参加者の声など</p> <p>⑥今後工夫していきたい点・目標 *これまでの活動を振り返って、今後工夫していきたい点や達成したい目標があれば、その内容を記載して下さい</p> <p>⑦【必須】みなさまの活動を紹介する参考資料をご一緒にお送り下さい (写真、動画、DVD、SD カード、パワーポイント資料など)</p>
募集期間	<p>2017 年 10 月 1 日（日）～11 月 20 日（月）* 当日消印有効</p>
応募方法	<p>①応募用紙、②みなさまの活動を紹介する参考資料をご一緒にお送りください（写真、動画、DVD、SD カード、パワーポイント資料など）</p> <p>【必要事項】応募用紙に「応募部門」「団体名・チーム名もしくは企業名」「団体ホームページ URL（ある方のみ）」「郵便番号・住所」「担当者氏名」「電話番号（日中連絡のつきやすい番号をご記載ください。）事務局から連絡がある場合がございます。」「E メールアドレス（ある方のみ）」</p> <p>※応募用紙ダウンロードはこちらまで http://www.seiho.or.jp/activity/health/sportylife/</p> <p>※応募資料は返却いたしません。応募に伴う資料送付費用は、応募者負担となります。</p>
応募宛先	<p>〒102-8025 東京都千代田区紀尾井町 3-23 「スポーティライフ大賞」事務局</p> <p>※応募は郵送のみ。FAX、E メールでの応募は受け付けておりません。</p>
賞 金	<ul style="list-style-type: none"> ■グランプリ…賞金 30 万円（各部門 1 団体） ■準グランプリ…10 万円（各部門 1 団体） ■優秀賞…5 万円（各部門 3 団体） ■特別賞…5 万円（地域コミュニティ部門 3 団体）※高校生・大学生対象
選考委員	<p>【選考委員長】久野譜也さん（筑波大学大学院 人間総合科学研究科 教授）</p> <p>【選考委員】伊藤華英さん（元競泳日本代表） 小林研一（生命保険協会副会長）</p>
主催・後援	<ul style="list-style-type: none"> ■主催：一般社団法人生命保険協会 ■後援：スポーツ庁、日本教育新聞社 など
発表・表彰	<p>2018年2月16日（金）に生命保険協会のHPで発表。入賞団体には表彰に出席いただきます（表彰は団体・企業の所在する都道府県にて行う予定です）。</p>

応募条件	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者は日本国内に在住し、日本国内に活動拠点があること ・取組みを公表可能であること ・活動内容を他団体等で実施することを承認いただけること ・団体の目的や活動内容が政治・宗教に偏っていないこと ・反社会的勢力およびこれらと関わりのある参加者・団体でないこと ・応募された写真、動画、取組事例紹介資料の著作権は一般社団法人生命保険協会に帰属し、生命保険業務の広報活動等に使用します。なお、応募に関する個人情報個人情報保護法に則って管理の上、受賞やその連絡、広報活動への協力を依頼する目的以外には使用しません。
問い合わせ先	<p>「スポーティライフ大賞」事務局 電話：03-3263-0005 E-mail：sportylife@prk.co.jp ※電話受付時間 10：00～18：00（土日祝日を除く）</p>

■ 募集事例イメージ（例）

【地域コミュニティ部門】

スポーツを通じて地域の高齢者や子供の健康増進に取り組む団体
地域住民を対象にした運動会を企画運営する商店街青年部
地域住民とのスポーツ交流会を行う高校・大学部活動
地域おこしのためにスポーツイベントを開催している NPO 団体
地域独自の健康体操やスポーツを考案し、普及に取り組んでいる団体
パラ種目体験会を行う団体
仲間同士でマラソンチームを作る人たち 等

【企業部門】

自転車、ジョギング通勤制度を導入している企業
従業員向けにウォーキング・キャンペーンを実施している企業
スポーツ休暇導入企業
朝や昼など定時に、会社独自の体操をしている企業
従業員の「部活動」を推奨し、支援を行っている企業
社内に卓球台、バスケットなどスポーツ設備が整備されている企業
社員の運動量や健康状態に応じて手当が変わる企業
社長が主体となって社員とともに運動を健康増進・レクリエーションとして取り組む企業 等

■一般社団法人生命保険協会 概要

・目的と事業 わが国における生命保険業の健全な発達及び信頼性の維持を図り、もって国民生活の向上に寄与することを目的として、次の事業を行っています。

1. 生命保険事業に関する情報提供及び理解促進に関する事業
2. 生命保険に関する相談、苦情対応及び紛争解決に関する事業
3. 生命保険事業の適切な運営を確保するための制度及び施策に関する事業
4. 社員会社等の職員に対する教育及び研修に関する事業
5. 生命保険の理論及び実務等に関する調査研究に関する事業
6. 関係官庁、関係機関その他に対する意見の表明等に関する事業
7. 社会的責任を遂行するための事業
8. その他本協会の目的を達成するため必要と認めた事業

・沿革

1898（明治 31）年 生命保険会社談話会を設立
1905（明治 38）年 談話会を生命保険会社協会に発展的に改組
1908（明治 41）年 生命保険会社協会、社団法人として認可を得て発足
1942（昭和 17）年 生命保険統制会を設立し、生命保険会社協会を生命保険集会所と改称、業務の大部分を生命保険統制会に移管
1945（昭和 20）年 生命保険統制会を解散、生命保険中央会を設立して管掌事務を移管。生命保険集会所の名称を生命保険協会と改めて再発足し、生命保険中央会からの事務を継承
2008（平成 20）年 100 周年を迎えました。

・会員会社一覧（加盟会社一覧）（平成 29 年 9 月 15 日時点）

アクサ生命保険株式会社	チューリッヒ生命
アクサダイレクト生命保険株式会社	T & Dファイナンシャル生命保険株式会社
朝日生命保険相互会社	東京海上日動あんしん生命保険株式会社
アフラック	日本生命保険相互会社
アリアンツ生命保険株式会社	ネオファースト生命保険株式会社
S B I 生命保険株式会社	富国生命保険相互会社
エヌエヌ生命保険株式会社	フコクしんらい生命保険株式会社
F W D 富士生命保険株式会社	プルデンシャル生命保険株式会社
オリックス生命保険株式会社	P G F 生命
カーディフ生命保険会社	（プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社）
株式会社かんぼ生命保険	マスミューチュアル生命保険株式会社
クレディ・アグリコル生命保険株式会社	マニユライフ生命保険株式会社
ジブラルタ生命保険株式会社	三井生命保険株式会社
住友生命保険相互会社	三井住友海上あいおい生命保険株式会社
ソニー生命保険株式会社	三井住友海上プライマリー生命保険株式会社
ソニーライフ・エイゴン生命保険株式会社	みどり生命保険株式会社
損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社	明治安田生命保険相互会社
第一生命保険株式会社	メットライフ生命保険株式会社
第一フロンティア生命保険株式会社	メディケア生命保険株式会社
大同生命保険株式会社	ライフネット生命保険株式会社
太陽生命保険株式会社	楽天生命保険株式会社

・本部所在地 〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 3F

■ 選考委員プロフィール

久野 譜也さん（筑波大学大学院 人間総合科学研究科 教授）

【プロフィール】

1962年生まれ。筑波大学大学院博士課程医学研究科修了。医学博士。2011年より現職。2002年に健康増進分野日本初の大学発 VB 株式会社つくばウエルネスリサーチを設立。代表取締役社長兼任。科学的根拠に基づいた高齢化社会に対する日本の健康政策の構築を目指して2009年全国8市長とSmart Wellness City 首長研究会を立ち上げ、現在35都道府県68区市町に拡大。内閣府、厚労省、文科省、経産省、総務省、国交省等各種委員会委員を務める。

著書に「寝たきりになりたくないなら大腰筋を鍛えなさい」「股関節の痛みを取ると健康になる」「病気になる背筋と腹筋の鍛え方」（PHP 出版）「サルコペニア肥満解消ダイエット」（朝日新聞出版）など多数。また、NHK 総合テレビ「ためしてガッテン」「あさイチ」やフジテレビ系列「ホンマでっか!?TV」テレビ朝日系列「モーニングバード！」などにも出演。

1992年3月 筑波大学大学院博士課程医学研究科 修了

1992年3月 博士（医学）（筑波大学）

1992年 東京大学 助手 教養学部保健体育科

1994年 Pennsylvania 大学医学部（米国）客員研究員（文部省在外研究員）

2002年 株式会社つくばウエルネスリサーチ 代表取締役社長 兼任

2011年 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 教授

伊藤 華英さん（元競泳日本代表）

【プロフィール】

ベビースイミングから、水泳を始め、2000年日本選手権に15歳で初めて出場。競泳選手として、2001年世界選手権（福岡）から女子背泳ぎ選手として注目された。また、日本代表選手として2012年ロンドンオリンピックまで日本競泳会に貢献する。長い手足、長身でルックスの良さからメディアからも注目され、2004年アテネオリンピック出場確実と騒がれたが、選考会である日本選手権にて実力を発揮出来ず、オリンピック出場を逃す。水泳が心底好きという気持ちと、オリンピックにどうしても行きたいという強い気持ちで、2008年女子100m背泳ぎ日本記録を樹立し、初めてオリンピック代表選手となる。その後、メダル獲得を目標にロンドンオリンピックを目指す。怪我により、2009年に背泳ぎから自由形に転向。自由形の日本代表選手として、世界選手権・アジア大会での数々のメダル獲得を経て、2012年ロンドンオリンピック自由形の代表選手となる。その後、2012年10月の国体（岐阜）の大会を最後に現役を引退する。現役引退後は、ピラティス講師の資格取得と共に、水泳とピラティスの素晴らしさを伝えるのと同時に、スポーツの発展、価値向上のために活動中。

2013年4月～2014年3月 早稲田大学学術院 スポーツ科学研究科 スポーツマネジメント専攻（卒業）

2014年4月～順天堂大学大学院博士後期過程に進む 順天堂大学スポーツ健康科学研究科精神保健学専攻。上記専攻に加え、非常勤講師として一般水泳の指導と体育会水泳部の指導にあたる。